

# 女性の視点でつくる かわさき防災プロジェクト

## 趣旨

私たちは川崎市男女共同参画センターが呼びかけ、市内在住の女性市民からなる公募型の防災プロジェクトです。昨年9月1日より活動を開始し、災害時に男女がともに自分の命は自分で守り、自助力を高めていけるよう生活者の立場から身近な防災への取り組み・知恵を集め、それを発信していくため防災ニュースレターの作成をしています。《8月1日（水）》プロジェクトメンバー 5 名で市役所を訪問し、川崎市上下水道局の方に取材していろいろと気になっていることを聞いてみました。

## 1. 大震災後の給水活動

給水の手段は3つ

### ① 災害対策用貯水槽

31 基、内貯留管6基（配水管の一部を大口径に変えて公園などに埋設）

地下に埋められた貯水タンクで、ふだんは水道水が流れていますが、地震で自動的に弁が閉じて新鮮な飲料水がタンク内にたまった状態になります。（容量は1基が100m<sup>3</sup>。

約 11,000 人が使う1人1日3ℓの3日分の量）

自主防災組織によって開設できるので、早期から給水できます。

液状化が起こりやすい地域（臨海部・多摩川ぞい）などに設置。

### ② 緊急給水栓（応急給水拠点）

138 か所

耐震水道本管に設置してある空気弁や消火栓に、組立式の給水器具をとりつけます。緊急給水栓の開設にあたっては、危険を伴うバルブ操作があるため市の職員が行います。

安全な水道水の供給を確認したうえで開設するため、発災後3日くらいかかります。必要に応じて、市内に数多くある消火栓などを活用した臨時的拠点も開設します。

### ③ 給水タンク車（運搬給水）

5台（4トン車2台・2トン車3台）。配水工事事務所等にありま。

トラックにのせる給水タンク：（2トンが10個・1トンが61個）

注水地点（水を積む所）：12 か所

優先的に給水する施設：人工透析病院・救急病院・避難所・福祉施設。

## 感想

### やはり、自宅での 備蓄は大切！

川崎市でも努力されていますが、なにぶん人口が多いです！

また家屋の倒壊で給水車が思うように走れない、上水道本管の被害が多発して緊急給水栓が使えない、市の職員も被災されて出勤できない…など、大震災となると予定通りにいかないことの方が多いのでは。

「飲料水 3 日分の備蓄では足りない！」と思います。

### 生活用水の事も 考えておかななくては

過去の震災では、飲料水を確保するだけでも疲れ果ててしまったそうです。お風呂は無理としても、手洗い・身体ふき・食器洗い・掃除・洗濯・料理…。排水設備が大丈夫ならトイレで流す水もほしい。節水しながらの生活は、どうすれば？

○災害用井戸：飲料水用は 3 か所、  
生活用水用は 4 5 か所

井戸の所有者の方のご理解により、災害時に利用できるそうです。（市の資料より）

○雨水や川の水の利用法は？

## 2. 上下水道施設の耐震

### 川崎市の耐震化率は？

	2012年度		2018年度(予定)
①浄水施設(浄水場など)	41.2%	→	100.0%
②配水池・配水塔	13.6%	→	96.1%
③管路(配水管など)	23.3%	→	30.9%

### 大地震(マグニチュード7.3クラス)が起きた場合の被害予測



①上下水道が使用できるまでにかかる概ねの日数

⇒上水道は19日、下水道は30日後に復旧すると予想。

②上下水道が使えなくなる世帯数

⇒上水道は最大で約5割の世帯が断水。

下水道は最大で約4割の世帯が排水停止。

## 3. その他

### 地域断水とは？

※川崎市の上水道は、大配水ブロック(14)→中配水ブロック(40)に分けて配水。

- ①地震で、ある配水ブロックの水道管がこわれて、水が吹き出す。
- ②そのブロックのバルブを閉めて、被害が他のブロックに及ばないようにします。  
なるべく断水の範囲を少なくするように、さらにバルブを調整します。

### マンホールトイレにご注意!

①便を流す水が無い場所では使えません。

自治会などで備蓄するケースがありますが、汚水マスに設置しても便を完全に流すだけの水が確保できないと、マスや排水管がつまってしまいます。

②公道に設置してはいけません。

マンホールに人が落ちる可能性がある、緊急車両が通れなくなる、下水道調査の支障になる、道路管理者の許可が必要、などの理由です。

③市が設置したマンホールトイレ

広域避難場所 : 大師公園・中原平和公園・富士見公園に各10基ずつ設置済み  
設置予定 : 小田公園(今年度)、幹線道路ぞいの中学校

### 編集後記

私たちプロジェクトメンバーは前年度の「トイレ」に続いて、今年度は「水」について興味を持ち、少し調べてみました。

大震災後、「トイレ」と「水」の確保が大切になってくると考えたからです。次回も「トイレ」「水」の確保に続くテーマで調べます。

